

授業者氏名	井上 陽平	学校名	甲賀市立 甲南中学校
教科・科目	生活・作業・社会	対象学年 (人数)	8組 (6名)
実践年月日もしくは期間 (時数)	2016年1月 (7時間)		

【実施概要】

1. 単元名(活動名) : とっても豊かでとっても貧しい国 ～タンザニアから見る世界～					
2. 教科・領域との関連性 : 社会科 (地理的分野) : 世界の諸地域 (アフリカ州) 社会科 (公民的分野) : 私たちと国際社会の諸課題	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	○文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	○人権	環境	○平和	○開発
	D 未来への選択	歴史認識	○市民意識	社会参加	
4. 単元の目標 (評価の観点を意識して設定) :					
<ul style="list-style-type: none"> ・外国の文化に親しみと尊敬の念を持ち、興味の範囲を広げる ・世界の貧困の問題を理解し、関心を持つ ・経済的な観点以外の豊かさの尺度を持ち、幸福感の広がりを得る ・貧困問題に対して解決可能という希望を持ち、自分のできる部分を探す 					
5. 単元の 評価規準例	(ア) 関心・意欲・態度	タンザニアの文化に親しみと尊敬の念を持つことが出来る			
	(イ) 思考・判断・表現	お金があることと豊かであることの区別が出来る			
	(ウ) 技能	多くの地図資料をテーマに沿って見る事が出来る			
	(エ) 知識・理解	乳幼児死亡の原因を解決可能なものであると理解する			
6. 単元設定の理由 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>本クラスは特別支援学級 (知的障がい) で、中学1・2年6名が在籍している。少人数で活動することが多いため、生徒は関わる社会の範囲がせまくなる傾向がある。また情報に対して受動的なため、テレビやインターネットなどの情報に大きく左右される傾向がある。そのような生徒に対して関わる社会の範囲を広げ、表面的な情報に対してオルタナティブな感性を持たせるために世界とつながる学習は有効だと考える。</p> <p>その学習をすすめる上で留意していることは三つある。ひとつはまずその国と幸福な出会いをすることである。マイナスイメージから入ってしまうと哀れみや無関心を産む恐れがあるから、プラスのイメージが残る楽しい学習を多く用意した。</p> <p>もうひとつは貧困に対するイメージを深めることである。お金やモノがないから必ずしも貧しいというわけではない。貧乏=不幸というイメージから脱却し、そこには精神的な豊かさがあることに気づかせたい。</p> <p>そして最後にそれでもやはりなくなった方がいい貧しさがあるのではないかと考える時間を取ることで、貧困に対する考えが深めることである。国際貢献を考える際に必ず突き当たる支援に対する葛藤の一端を生徒にも感じてもらいたい。加えてその問題は解決可能であることをイメージさせておくことも必要だと思われる。</p> <p>これらの留意点は決して特別支援だからではなく、通常学級でも、どの学年でも同じと考える。出会った文化に魅力を感じ、多面的な視点を持ち、その未来は明るいと考えているこれらの生徒が将来、世界と関わる力となるのではないかと感じている。</p>				
7. 展開計画 (全8時間)					

時	ねらい	活動 ※：Active Learning の要素があれば記載	教材
1 生活	○タンザニアの文化を実物、写真から知り、その相違点と共通点を見つけ、親しみと尊敬の念を持つ	①地図帳を使ってタンザニアの位置を確認し、首都や言語などの基礎的な知識を得る ②タンザニアに関するプレゼンテーション（自作）を見る ・「市場」では売られている品物を聞く ・「体を折る活動（洗濯とコーヒー売り）」では同じ姿勢を取らせる ・「日本の信号機」では「ここにある日本を探そう」というクイズを出す ③「タンザニアボックス」（自作）を使ってタンザニアの文化に触れる ※ ・「洗面器と水差し」「カリンバ」「歯ブラシ」「ほうき」は何に使うのかをクイズで ・「カンガ」は利用法をいくつか交える、また書かれている文のいくつかを紹介する ・最後にカリンバ、ジャンベなどを使ってリズム遊びをする ④タンザニアと日本のちがう点と同じ点を整理し、文化には「相違点」と「共通点」があることを伝える	○地図帳 ○タンザニアのプレゼンテーション（自作） ・一般的な写真（セレンゲティ自然公園、街の様子や市場） ・印象的だった場面（携帯電話の普及、キャッサバ畑、子供の多さ、体を折ってする洗濯） ○タンザニアボックス 内容・洗面器と水差し ・カリンバ ・木の歯ブラシ ・カンガ ・ほうき ・ジャンベ
2 3 作業	○タンザニアの料理を調理して食べ、興味や好意的な意識をさらに高める	①タンザニア料理を3班に分かれて調理する※ ・チップスマイイ：卵とジャガイモをまぜて焼いたもの（家でもできることを重視） ・ウガリカレー：ウガリとレトルトカレー（ウガリをおいしく食べてもらうことを重視し、カレーとあわせた） ・チャイ：スパイスと牛乳（コーヒーはインスタントなので、調理するものにする） ②食べながらゲストティーチャーにタンザニアでの暮らしについて話を聞く ・ここでも相違点と共通点を意識して話してもらうようお願いしておく	○タンザニア料理の材料（卵・冷凍じゃがいも・ウガリ・レトルトカレー） ○ゲストティーチャー（タンザニア在住経験者）
4 本時 自立	○タンザニアが持つ経済面以外の豊かさを知り、ものごとを「良い面」「悪い面」の両方から見る習慣をつける	①「後発開発途上国（LDC）」「乳幼児死亡率」「栄養失調」「小学校卒業率」の世界地図を並べ、タンザニアの場所を確認しながらタンザニアがいずれも厳しい状況であることを知る ②ビデオ（知人作成）を見て、そこに写る人たちのおおらかさや元気さを見て、統計上の貧しさとちがう豊かさを知る ③タンザニアで見られる現象を「いいこと」「悪いこと」に分けて考え、意見を交流する※ 発問「家に電気が来ていない」 「仕事を探す、なかなか見つからない」 「水道がなく、遠くまで水をくみに行く」 ④学校の授業を写した写真を提示し、悪い面を探した後、この写真から見える「いい面」を探し、意見を交流する	○さまざまなテーマの世界地図 ・後発開発途上国 ・栄養失調（飢餓） ・乳幼児死亡率 ・小学校卒業率 ○ビデオ（知人提供） 子供たちの元気な姿が数多く写っている ○写真「学校の様子」（知人提供）

<p>5 社会</p>	<p>○乳幼児死亡の原因のグラフから、改善すべき貧困もあることを知り、またそれが改善可能であることにも気づく</p>	<p>① 生徒に今まで学校を休んだ理由を聞き、「かぜ」や「腹痛」「発熱」「ケガ」などを黒板にあげていく</p> <p>②乳幼児の死亡原因のグラフをあげ、かぜと肺炎、腹痛と下痢を対比、また、はしかや虫さされは日本もあることを紹介し、日本では学校を休む程度の理由が死ぬ理由になっていることを知る</p> <p>②自分が病気やケガから学校に再び来るまでにあったことを思い出し、何があったから、または何がなかったから死ぬことはなかったのかを見つけ、発表する※</p> <p>③世界が抱える問題はいずれも解決が可能であり、また解決する方法も明らかであることを伝える</p> <p>④ミレニアム開発目標（MDGs）のイラストだけを見せ、そのイラストが何を意味しているかを考えて、解決する方法を学ぶ</p> <p>⑤ミレニアム開発目標（MDGs）の最終報告を紹介し、乳幼児死亡は半減したことを伝える。また他の目標も前進したことを紹介し、それは持続可能な開発の目標（SDGs）に引き継がれたことを伝える</p> <p>⑥SDGsのイラストの意味を考え、これからの世界の問題の解決には何が必要なのかに気づく</p>	<p>○乳幼児死亡率の地図</p> <p>○乳幼児死亡の原因のグラフ</p> <p>○ミレニアム開発目標のターゲット表（イラストのみ）</p> <p>○持続可能な開発の目標のターゲット表（イラストのみ）</p>
<p>6 7 8 生活 作業</p>	<p>○タンザニアの代表的な文化であるティンガティンガアートを体験して文化を理解するとともに、クラスの中の感性のちがいを交流し、相互理解を深める</p>	<p>①ゲストティーチャーからティンガティンガアートの特徴や歴史、作品などを簡単に紹介してもらう</p> <p>②ティンガティンガアートに描かれる動物を見せ、その特徴を実感する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンザニアにいる動物の写真を見せる ・その動物がティンガティンガアートではどう描かれているかを紹介し、その色使いやデフォルメの様子を見る <p>③象の写真を見せ、自由に象をティンガティンガアート風を書いて着色していく。その下書き完成時点と色塗り終了時点で作品を見せて自分の思いについて発表し合い、互いの作品を交流する※</p> <p>④ゲストティーチャーからそれぞれの作品のよいところを聞き、最後にタンザニアと日本の共通点や相違点について、話をまとめとして聞く</p>	<p>○ゲストティーチャー（タンザニア在住経験者）</p> <p>○ティンガティンガアートの作品数点</p> <p>○動物の写真とティンガティンガアートで描かれたもの（キリン、カバ、ヒョウ）</p> <p>○画用紙、クレヨン、ポスターカラー、アクリル絵の具</p>

8. 本時の展開			
過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	前時の復習 子供の写真を提示し、ぼろぼろに破れた服を着ていることに注目をさせる	・タンザニアにはさまざまな魅力があることを確認 ・本時のテーマである「豊かさと貧しさ」を提示する	○写真 :ボロボロのシャツを着ている子供
展開 (35分)	<p>(1) タンザニアはまずしい 「後発開発途上国」「平均寿命」「乳幼児死亡率」「栄養失調人口率」「小学校卒業率」の世界地図でタンザニアを探す → タンザニアには多くの問題がありそうだ。</p> <p>(2) タンザニアはまずしい？ タンザニアの様子をまとめたビデオを見せ、統計上の貧しさとのギャップに気づく → もしかしてこの人たち幸せなんじゃないのか？</p> <p>(3) 事実を「いいこと」と「悪いこと」から見てみよう 「家に電気が来ていない」 「仕事がなく、お金がない」 「水道がなく、遠くまで水をくみに行く」の写真を見て「いいこと」と「悪いこと」を考え、意見を交流しあう</p>	<p>さまざまなデータからタンザニアには多くの問題があることに気づかせる</p> <p>・1日150円だったらどうやって暮らすかを聞いてその大変さをイメージさせる</p> <p>・ビデオを見たあと感想を聞き、統計上の貧しさと映像に映る人々の明るさを対比させる</p> <p>・個々の生徒に補足質問を加え、考えが深まることを促す</p> <p>・生徒の意見を発表させ、さまざまな視点があることを紹介する</p>	<p>○統計地図</p> <p>・後発開発途上国</p> <p>・平均寿命</p> <p>・乳幼児死亡率</p> <p>・栄養失調人口率</p> <p>・小学校卒業率</p> <p>○ビデオ（約10分） タンザニア訪問時の様子をもとめたビデオ</p> <p>○ワークシート</p>
まとめ (10分)	タンザニアは不幸ではなく、すべての事実には「よい面」も「悪い面」もあることを伝える 授業の風景の写真を見せ、写真からわかる「いいこと」と「悪	「よいこと」はそのまま残し、「悪いこと」を改善していくことでさらによくなるイメージを持たせ、次の時間のねらいに近づけておく	○写真：授業の風景

	いこと」を探し、発表する		
<p>9. 本時の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの地図でタンザニアをさがす作業は予想以上にはやく出来た。ただ前時まで使っていた太平洋を中心とした地図と本時で使う大西洋中心の地図で混乱する生徒も出たので、使用地図を統一する方がよい ・「いい点」を見つけることはやや時間がかかる。特に「電気が来ていない」ことに対するいい点を見つけるのに時間がかかった。ひとり発表させることで刺激を与えようとしたが、その意見をそのまま書いてしまう生徒もいた。ひとりひとりの発達段階の差は大きく、何人かの生徒にとってこの質問はむずかしいのかもしれない。 ・ビデオはたいへん興味を持って見ていた。開始後 20 分くらいで見ることにしたため、生徒にとっていい気分転換になった。ビデオや写真を使用するにはタイミングが重要であると感じた。 ・「いろんな問題はあるけれど、タンザニアは楽しい」というイメージは伝わったが、もう一步踏み込んで「楽しいけれど、だからといって問題を放置していいのか」という問いが伝わらなかった。その部分を伝える工夫がもうひとつ必要だと感じた。 			

【自己評価】

10. 苦勞した点	知的発達は小学校 3～4 年段階だが思春期でもある中学校の特別支援学級であることを考慮した学習計画を立てることに時間がかかった。前半部のタンザニアへの興味を高めることに多くの時間を費やしたことや、少人数を生かして全員が関われる課題を提供することなどで対応することにした。ただ生徒にとって一番のインパクトである「その国の人に会う」ということの実現が果たされなかったことや、発達段階の差によっては課題が難しすぎたという反省は残る。
11. 改善点	ゲストティーチャーの招聘についての事前の知識や情報があれば、一番のインパクトである「その国の人に会う」場面を作ることが出来た。JICA はもちろん、大学や各市町村の国際協会などにも連絡することで解決が出来るだろうと思われる。また最後の時間の学習で「世界を変えるためにできること」として、「自分の生活習慣を見直してみる」という活動ができなかったので、次回は最後の時間を拡大してその部分について考える時間を持ちたい。
12. 成果が出た点	ティンガティンガアートでは自分たちの作品を見せあったり、自分の考えを交流する機会も多かったので国際理解と同時にクラス内の相互理解にも成果があり、クラスの雰囲気作りに大きく貢献した。そして物事を「よい面」「悪い面」の複眼的に見る習慣は、他の出来事にも応用でき、ストレスの解消になることにもなる。例えば「部活の試合で負けた。いい面は？」と聞くと、「次はこうしようとわかる」と返してきた生徒もいた。

13. 学びの軌跡
(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)

○最初のプレゼンテーションとタンザニアボックスの中で特に生徒が興味を持ったものは①歯ブラシの木 (磨かせて! という声があがる) ②カリンバ (時間を見つけて演奏する) ③体を折ってする洗濯 (床に手をつけあう) ④カンガ (体に巻きつけて写真を撮りあう) だった (1 時間目)

○料理はチップスマヤイが人気だった。ウガリは食べてみたという程度。チャイは料理に失敗したため、もう一度おいしいチャイを飲み直した。代表が歯ブラシの木で歯磨きをしたが意外に違和感がなかったため、逆に印象に残らなかったようだ。
(2, 3 時間目)

○生徒の発見した「タンザニアの事実のよい点」は以下のとおり。電気が来ていない→「毎晩よく寝られる」「(火のあるところに) みんなで集まってくる」。水道がない→「力がつく」「みんなでおしゃべりしながら水を取りに行く」。仕事がない→「お金をわけあう (習慣がつく)」「家族ですごせる時間が増える」「自分で仕事を作る」ある生徒は感想に「問題もいっぱいあるんだろうけど、いい面の方が上回ると思いました」と書いていた (4 時間目)

○SDGs の 17 のターゲット中、「気になる」と答えた生徒が複数だったのは「3 : 健康」「8 : よい仕事と経済成長」「17 : ゴールに向けた協力関係」。以下感想。「世界の勉強がいっぱい出来てよかった」(2 人)「世界には日本といろいろちがうところがあるのがすごいなと思いました」「私ができることはしていきたいです」
(5 時間目)

○ティンガティンガアートで描いた「象」は何色も使って描く、親子と言って 2 頭描く、大きなバオバブを描くなど、生徒一人ひとりがちがっていた。その特徴を発表し合って拍手し合った。ひとりひとりちがうテーマで描くことが出来た (6, 7 時間目)



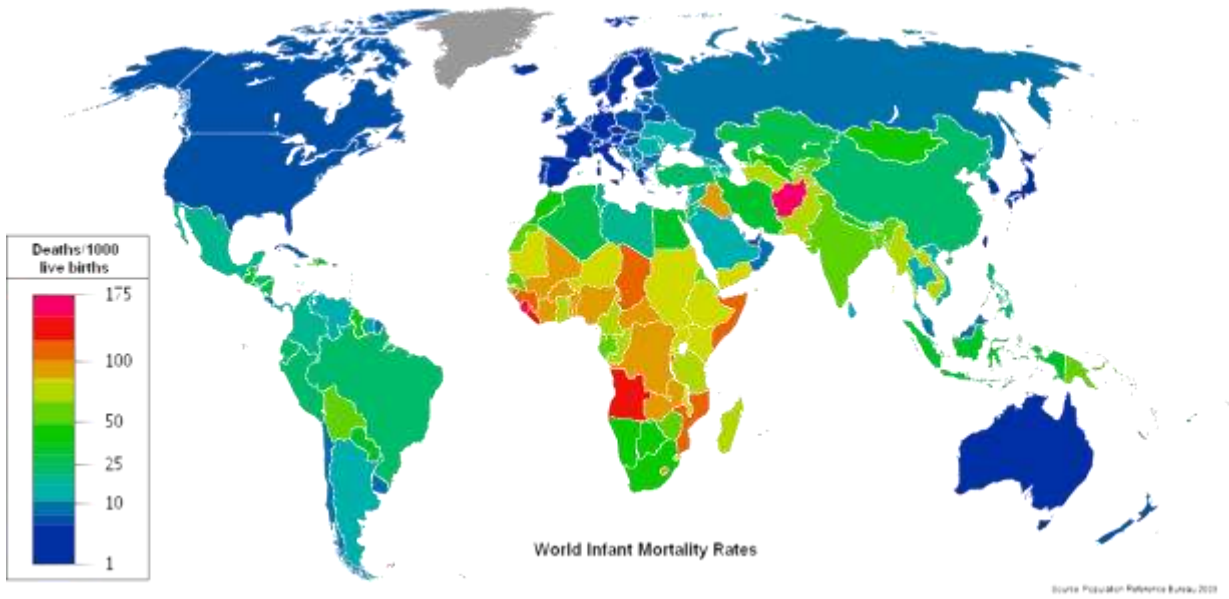
14. 備考（授業者による自由記述）	<p>本時は特別支援学級で行ったものであるが、通常学級（小学校高学年～中学校）でも適用できる内容ではないかと考えている。また複数のねらいを持っているので、ねらいにあわせて必要分を取り出すことも可能である。例えば異文化理解に力点を置くのなら前半とアートの部分、多面的な見方を身につけるのなら第4時、貧困の問題を身近に感じるのなら第5時、というようにすることもできるだろう。また中学校の3年生くらいならば、乳幼児の死亡原因の背後にある栄養失調について考えさせることもできるし、支援のあり方を巡って討論活動を行うことなどが可能となるだろう。逆に特別支援の中でも知的発達がもう少し遅い場合は、前半の工夫、例えばティンガティンガアートはぬり絵にする、調理実習のメニューを減らすなどで対応が可能ではないかと考えている。</p>
--------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

参考資料：

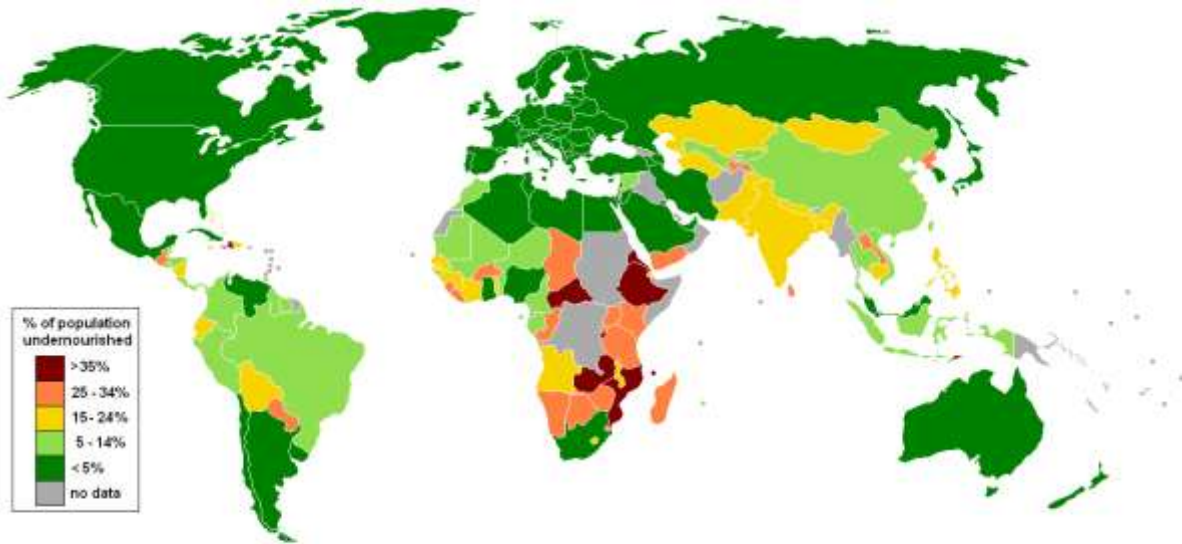
- ・ JICA 「国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！」
「生まれ！地球の教室」 (<http://www.jica.go.jp/hiroba/menu/education/>)
- ・ JICA's world 2010年6月号 特集「2015 約束の年 8つの宿題」
- ・ Mundi 2014年4月号 p6,7 ミレニアム開発目標（MDGs）みんなで幸せな社会を作ろう
2014年12月号 p6,7 貧しさからの脱却・未来への道をその手で・タンザニア
2015年2月号 特集「動く、アフリカ」
2015年12月号 特集「私たちが未来を作る 持続可能な開発目標(SDGs)」
- ・ unicef news 2015年秋号（247号） 特集「ミレニアム開発目標は達成できたのか？」
- ・ Wikipedia 「後発開発途上国」「飢餓（栄養失調人口）」「平均寿命」「識字」 各地区
- ・ NGO ボランティア・プラットフォームHP 「教育不足・識字率」
(<http://volunteer-platform.org/kyouiku/>)
「小学校に入学した子どもが卒業できる割合」地図
(<http://volunteer-platform.org/images/contents/educ.gif>)



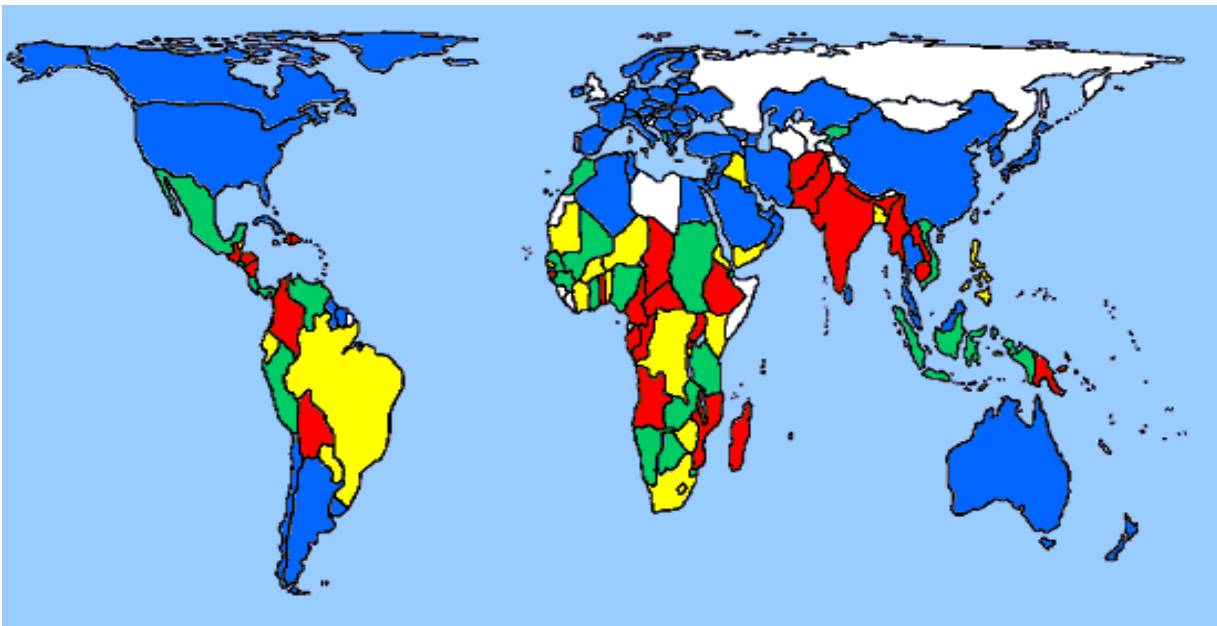
後発開発途上国地図（wikipedia）



乳幼児死亡率地図(Wikipedia)

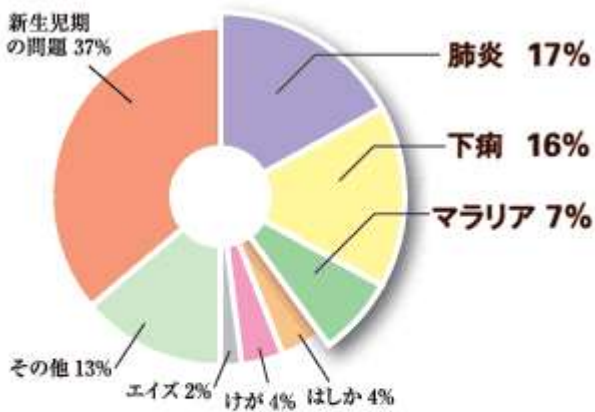


栄養失調（飢餓）地図（wikipedia）



小学校卒業割合 (NGO ボランティアプラットホームHP)

■世界の5歳未満児の死亡原因■



※死亡原因の3分の1に栄養不良が関係している。
出典：WHO 2004年

肺炎・下痢・マラリアの3つの原因が
全体の40%を占める。

5歳未満の幼児の死亡原因 (日本ユニセフ協会HP)



特集 2015 約束の年 8つの宿題

MDGs のイラスト

(JICA's world2010年6月号表紙)



SDGs の内容 (mundi2015 年 12 月号から)



ウガリなどの調理実習



ティンガティンガアート教室